寺岡おやじの会

沿革
平成１１年（１９９９年）５月設立
設立時の会員数約６０名、寺岡小学校児童の父親が参加　現在の会員数もほぼ同数
事務局を寺岡小学校におきながら　自由な立場を選択し　何処の組織にも拘束されないスタンスを貫き現在にいたる

歴代世話人代表
初代世話人代表　　砂金　靖志　（平成 11～14）
２代目　　代表　　小幡　恭二　（平成 14～17）
３代目　　代表　　和田　孝之　（平成 17～19）
４代目　　代表　　伊藤　淳　　（平成 19～23）
５代目　　代表　　江川　貫治　（平成 23～現在）

会員平均年齢
４０代後半（推測）

会員出身地
宮城県４０％、東北他県２０％、関東周辺２０％、関西以西２０％

会則・会費
なし！

活動理念
「新しいふるさとづくり」

定例会
毎月第３土曜日（平成２３年も３月も含め毎月開催）
会議後の懇親会は子どもの参加も自由

主催行事
年４回：春（ハイキングなど）　夏（宿泊を伴うイベント　キャンプ・学校に泊まろう等）　秋（スポーツイベント）　冬（歩くスキー）

主管行事
「紫山音楽祭」毎年６月開催
「寺岡・紫山オリンピック」毎年９月開催

支援活動
地元夏祭への参加（寺岡・紫山両地区二週連続）
市民センター・児童センターのイベントの支援
学校イベントの支援
公園愛護協力会への支援（ゴミ拾い・花苗植え）

その他
「仙台青葉まつり」子供神輿に参加（平成２３年は震災により中止）

クラブ活動
陸　上　部：各地の市民マラソン大会に参加　東京マラソン完走者４人
　　2012 年「仙台国際ハーフマラソン」に７人がエントリー
焚き火クラブ：焚き火と静かなお酒とキャンプを愛する子ども禁制の会
ワンゲル部：主に東北の山の登山・山スキーなど
ゴ ル フ 部：休部中
野菜クラブ：市民農園を借りての野菜作り
合　唱　部：カラオケクラブ　随時開催
ソフトボール部：怪我人続出で休部中
軽 音 楽 部：「寺山オレンジジャグバンド」としてバンド活動
　　（バンドへの加入には「寺岡おやじの会」への入会が前提条件）

震災後の寺岡おやじ
３月１２日（土）　自転車で会員宅へ安否確認
３月１９日（土）　定例会　参加者十数人
３月２０日（日）　アメリカからの支援物資９３ｔの搬入作業
４月２９日（金）　女川で炊き出し（ＮＰＯとのコラボ）
１０月１６日（日）　石巻・石の森漫画館復興支援ライブ（わいわい企画とのコラボ）

寺岡おやじの会の会員は全員無事でしたが、ご両親など親族を亡くされた会員が複数いらっしゃいます。家屋の損壊も軽度ではあれ多数ありました。
それでも生きていて良かったと思える新しいふるさとを目指し、これからも寺岡おやじの会は活動してまいります。　筆者敬白

人形劇グループ「きかんしゃ」

高森順子

みなさまの温かいご声援に送られてもうすぐ800回公演を迎えます。
いったいどれくらいの子どもたちに人形たちは出会い、頭をなでられてきたのでしょう。
子どもたちの火照った手に触れられ「おもしろかったよ。」と声をかけられる幸せを、
私たちは人形たちと共にかみしめてきました。

1988年 仙台市内の母親たちの手で、手作り人形劇グループ「きかんしゃ」が発車しました。
仙台市内をはじめ宮城県各地の保育所、幼稚園、市民センター、児童館、小学校、
子ども会、老人福祉施設などで、すでに796回上演しました。

1993年12月　5周年自主公演
1995年10月　自然保護支援自主公演
1996年 2月　7周年自主公演
1999年 6月　10周年自主公演
2000年10月　韓国・江陵市、
東アジア太平洋人形劇
フェスティバルで上演
2002年 4月　中国北京市、広州市、
上海市の各小学校で上演
2002年 4月　中国広東省木偶劇団での交流上演
2002年12月　15年記念公演
2007年 7月　20年記念公演

「きかんしゃ」の人形たちはすべて手づくりです。さまざまな素材を駆使しながら、ひとつひとつ心をこめて頑丈に作っています。公演を重ねた人形たちはだいぶ傷んでもきましたが、手入れを重ね、その愛らしさはいつまでも変わりません。

人形たちだけでなく、大道具小道具もすべて身近な日用品や不要品を大変身させながら創り上げたものです。舞台に登場してくる小道具たちにも注目して下さい。あれは何が変身したものだろう？そんなことを考えてみるのも楽しいです。

（20年記念公演パンフレットより）

周囲を見渡しますと、「〇〇らしい」ものが急速に姿を消してしまったように思われます。もちろん「女らしさ」や「男らしさ」を押しつけられるのは、御免被りますが、季節の風や食べ物の味は言わずもがな、子どもの表情に険を見るのは辛いものです。「きかんしゃ」のメンバーは全員が母親でもありますから、時には上演の場で子どもをしかったりすることもあります。しっかりこちらの気持ちを伝えて、しっかり相手の視線を受けとめることができれば意外なほど素直に納得してくれます。そして、そんな日は、演じる側も見る側も一体となって、共に人形劇の舞台を仕上げる喜びと充実感に満たされるのです。人形と握手をして、頬ずりをして帰って行く子どもたちの後ろ姿が、ランランランとはずんでいるのがわかります。開演時には白けていた子が、終演時には、瞳に光をみなぎらせているのを見ると、私たちにも新たな力が湧いてくるのを覚えます。

しかし、年々人と人との関わりが希薄になっているのを反映して、視線を合わせられない子が増えているように感じます。子ども同士の出会いは言うまでもなく、もっと多様な人との出会いが子どもには必要なのではないでしょうか。先日、宇宙から撮影した地球を見て「なんとはかなげで、なんと美しい姿だろう」と、胸がしめつけられるようないとおしさを感じました。宮沢賢治さんが、ホモイに持たせた「貝の火」は、地球のようなものだったのかもしないと思いました。子どもの心も、本当は、地球の様に青く輝きながら、ゆったりと回っていたいのではないでしょうか。こどもの「貝の火」を濁らせることがないよう、大人たちが心すべき大事なときだと思います。　（10 周年記念公演パンフレットより）

創作ボードビル「わにわにランド」

いっしょにボランティアしてみませんか？

ころりん事務所で絵本整理などをしてくださる方を募集しています。

30～70 歳代の女性 20 人でワイワイ楽しく活動しています

わたしたち、読書ボランティアおはなしころりん です

大船渡市立図書館の
主催で開催される事業では
『おはなしパレード』
（図書館内でのおはなし会）
『ブックスタート』
（保健介護センターでの赤ちゃん検診で）
『おたのしみ親子劇場』
（毎年クリスマスおはなし会を開催）

4つの小学校の朝学習で定期的におはなし会を開いています。
（盛小学校、吉浜学校、大船渡小学校・末崎小学校）
猪川小学校では昼休みに『ひるっこおはなし会』が、
甫嶺・越喜来・崎浜小学校では『放課後おはなし会』があります。

大洋学園では、毎月第2週に元気いっぱいのお友だちと、『ひまわり組おはなし会』

大船渡市の
「働く婦人の家祭り」では、毎年大人も子どもも笑えるような愉快なおはなし会を開いています。

慈愛福祉学園では、
『日中一時支援事業』で毎月2回
『障害者文化教養講座』で年1回
皆さんとともに本を楽しんでいます。

震災後は、『避難所巡回おはなし会』『移動こども図書館』等、地域の復興支援にも積極的に関わっています。

その他、『出前おはなし会』として
ご依頼に応じて語り手を派遣します。
たとえば、育児サークルのイベントや
小学校では読書祭りの行事に、
学童や地区公民館など。
読み聞かせボランティア養成講座や、わらべ唄講座の
講師依頼にも応じています。

お問い合わせは、おはなしころりん事務所〔TEL/FAX－４７－３９３１〕まで

読書ボランティアおはなしころりん

後援：大船渡市　大船渡市教育委員会　気仙市民復興連絡会

移動こども図書館

貸し出し期間：制限なし

貸し出し冊数：１回につき３冊まで

毎月２０日ころに本の入れ替えをします

『つどいの広場』で楽しい絵本の貸し出しをしています。こども達もお母さん方もどんどん借りてくださいね

こどもたちの心豊かな成長を願って、本に手が届く生活環境を目指し移動こども図書館を巡回させています。賛同していただいた全国の方々が絵本を送ってくださいました。どうぞご利用ください。

もちろん、ここでもご自由にお読みください

お問い合わせ先

読書ボランティアおはなしころりん

TEL/FAX ０１９２－４７－３９３１

（おはなしころりん事務所）

貸し出し方法

■絵本を借ります

① 借りたい本を選びます
　１回の貸し出しに３冊まで借りられます

② 貸し出し帳に記入
　借りた日にちや氏名・連絡先等を書いてください

③ お持ち帰りください

・ご不明な点がありましたら、お問い合わせ先までご連絡願います

■絵本を返します

・貸し出し帳への返却日記入
　借りたときに書いた欄に、返した日にちを記入して、本は所定の書籍箱に入れてください

・貸し出し期間自由
　いつでもこちらにいらしたときに、お返しください

■破損しました

・かまいません。そのままお返しください

■失くしました

・かまいません。
　気にせず次の本を借りてください

平成２３年度移動こども図書館事業実施要項

１．目的　震災後に図書館へ足を運ぶことが困難な児童生徒の利便性の向上を図り、復興支援および教育文化の発展に寄与することを目的とする。

２．主催　読書ボランティアおはなしころりん

３．後援　大船渡市、大船渡市教育委員会、気仙市民復興連絡会

４．概要　専用車を用い、市内の小規模な施設等を定期的にきめ細かく巡回し、図書資料の閲覧と貸し出しを行う。また、貸し出し時には読み聞かせ活動や図書レファレンスなどを行う。

５．期間　平成２３年５月～平成２４年３月

６．対象　未就学児童から小学６年生までの児童生徒

７．巡回場所

市内および近隣の市町村の保育所や小学校、児童館、児童福祉施設、地区公民館、避難所、仮設住宅等。利用者の安全が確保できる場所。

８．巡回日程および時間

巡回先責任者と個々に調整する。

「地域に寄り添ったおやじたちの支援」

照井貴広（宮城県大崎市鹿島台おやじの会）
石垣政裕（宮城県：お父さんたちのネットワーク）
URL　http://kreis.sakura.ne.jp/tochannel/hp/
＊宮城県にはいわゆる「おやじの会」が 113 団体あります。「お父さんたちのネットワーク」は組のおやじの会の「やわらかな」ネットワークです。

『立て、立つんだオヤジ!』なにか耳の奥でそう聞こえるような気がしました。宮城県のおやじたちは、自身が被災者でもありながら、おやじらしい活動は何かと煩悶しながら動き出した記憶を、心の声を聞きながらもう一度たどってみることにします。

静かだった私たちの地域を揺るがし、住まいや職まで奪い、そして故郷を追い立てた大震災の爪痕は、もう半年にもなろうとしているのに、くたびれたように伸びきった夏草が覆い隠そうにも隠せないほど、厳然としてまだ私たちの目の前にあります。

１　はじまりは岩手のおやじの呼びかけ

全国のみなさんから安否を確認する連絡をいただくと同時に、おやじつながりの濱砂さん（福岡）や山下さん(京都)からは義援金を集めるという提案をいただきました。「なんということを考えるオヤジなのだ」と驚きながら、身のまわりをせっせとかたづけていた私たちの『コーナーの丸椅子が外された』のをしっかり覚えています。

『ゴング！マウスピースをつけて飛び出せ！』　岩手の水沢のおやじたちの呼びかけに応じ、たくさんの方々との出会いを大切にしながら、被災した子どもたちのためにと文具を集めました。日本だけでなくドイツからも文具の支援をいただき、大きな余震の合間を縫うように、ゆがんで亀裂の入った道路をひた走り、水沢に段ボールを運びました。

２．被災地が欲しい物は刻々と変化する

現地の情報がうまく届かない中、たくさんの方々が「支援をしたい。でもどうしたらいい」と熱い心の行く先を探していました。こんなとき、石巻の稲井オヤジの会の千葉さんから、いま被災した学校で欲しい物リストを作ってもらいました。学校で子どもたちが使うノコギリやハンマー、半田ごて、用務員さんの使う工具類のリストなどが 3 日おきぐらいにどんどん届きます。衣類や学用品は全国から届いているが、インパクトドライバーに電気カンナ、エンジン草刈機、リヤカーまである。「これこそオヤジが支援すべきだろう。」私たちはそう思いました。『カウンターは狙わなくていい。ボディーブローを効かせろ！』

石巻市・東松島市の小・中学校へ工具類を運ぶメンバー

全国のおやじの会、個人、さまざまな団体からの支援金が送られてきました。また、世界的なエンジニアリングの会社からもプロが使う電動

工具がなん台も送られてきました。日曜日、DIY の店に集まったみんなで手分けして工具を買いそろえ、被災した小中学校へ通いました。「用務員さんの明るい笑顔が先生たちにも伝わる」というようなお礼の手紙も届きました。『セコンドの指示を良く聞け、フットワークだ！』

３．支援したい心をつなぐ

私たちには資金があるわけでもありませんし、助成金で動いているわけでもありません。したがって、「こんな支援をしたい」といろいろな方々へ伝え、つながりをつくることに奔走しました。

万石浦小学校へ PC を届ける

仙台市泉区のある会社でリプレースした PC があると鹿島台おやじの会の照井さんが情報を入れる。さっそく、上司の方にお会いし、ノート PC50 台までの提供をいただく。ソフトメーカーに電話し、中に入れるアプリケーションを支援していただく。おやじたちはどんどん交渉も上手になっていきました。学校の PC は自治体からカバーしていただけるのですが、先生個人のものは補填されません。ここでした、オヤジが支援できるのは。

『距離を縮めて相手のふところに潜り込むんだ。』

また、原発事故により子どもたちが激減したし、放射線量の低い場所の施設を借りて再開設している南相馬の保育園を訪れ、困難な中でなんとか子どもたちを保育していると園長先生のお話をお聞きしました。そんなとき、香川の陶おやじの会から、映画会で集まったお金を使ってくれないかとの申し出がありました。年を取るにしたがって涙もろくなっているオヤジは涙が止まりませんでした。

被災した地域が少しずつ立ち直っていく過程で、本当に必要なものは、「そのとき」に必要なものであるということを実感させられました。また、必要なものは互いの話の中で生まれてくるということです。その地に行って、見て、話しをしてはじめて生まれてくるもが沢山あるのだということ。そして、そのために日頃からのつながりをしっかり作っておくことでもあります。

４．地域に寄り添った支援

通学列車が不通のままで、不便な高校生やこれから仮設住宅の足としては自転車が必要です。ちょうど「中古の自転車だが大量に支援できる」という申し出があったのですが、わたしたちには手に余るので他にお話を持っていきました。しかし、ちょっとした時間差なのですが、石巻の高校からは約 200 台の要請がありました。さあ、インターネットで全国の親父たちにも要請しました。放置自転車の件など、いくつかの情報もいただきましたが、数が数

だけに長い戦いになるなぁと思っていました。

自転車関係の知り合いの方に、何かいい方法はないだろうかとお聞きしました。すると、自転車の支援は大変にいいことなのだが、受け入れ先任せにしないこと、しっかり大量に自転車をもたらすことにより地域の商業を圧迫することになりかねないので慎重に行う必要がある旨を教えていただきました。「地域に寄り添う」オヤジの会を標榜する私たちにとっては貴重なお話しでした。

宮城県石巻女子校へ届いた自転車

そうこうしているうちに、なんと福岡の片江小おやじの会から自転車を送るという話が来ました。(後日、実際に贈られてきたときには感動しました)。これは、私たちも本腰を入れてかからないといけないと本当に思いました。『カウンターを受けてよろけたところで、声援が聞こえる。もういちど立て！』

自転車を支援をしてくださるという国際NPO法人に千葉さんからその旨をお話しいただくと石巻の自転車屋さんから200台購入して支援をして下さるというお話しをいただきました。ほんとうに感謝しております。また、スイスの方からも支援金をいただきましたので、同じように地域の自転車屋さんにお願いして、今度は気仙沼の高校へ届けることになりました。

５．国際色豊かなセコンド

おやじたちは立ち上がっているよといろんなところで話していると、たくさんのグループや個人がセコンドについてくれます。横浜の音楽家がコンサートで集めた下さったお金を送ってくれました。それで、東北大学の留学生と共に牡鹿半島の小さな浜の集会所を修繕しました。ドイツの空手や和太鼓のグループも送ってくれた支援金を届けに被災した南三陸や石巻の小学校、南相馬市の保育園も訪れました。

渡波中学校・稲井中学校のため、両校の協力をいただきノルウェーのグループのコンサートを主催しました。海への畏敬と子どもたちは大喜びです。コンサートの模様はYouTubeでも見ることができます。

６．しっかりと腰を据えた活動

いま、わたしたちは物資の支援と同時に、目には見えない「地域コミュニティ」の復興のことを考えています。最初に述べたように、この震災によって地域を失い、また地域が放心状態のままにある場合もあります。わたしたちが、震災を超えていくためには、「心の防波堤」である地域のコミュニティを再構築していく必要があり、ある意味では、「おやじの会の活動の原点をしっかり見きわめよう」ということになるのかもしれません。宮城のおやじたちは全国から寄せられるあたたかい声援・支援を誇りに『ゴングの音も無関係に、ファイトを続けろ』そんな気になっています。

まつお文庫の活動と34年のあゆみ　　2012.2.12

まつお文庫　松尾　福子

毎週水曜日と土曜日（ただし2005年より第2土曜日はお休み）　14:00～17:00
毎回30分のおはなし会と手作り（工作）
あやとり・お手玉・ケン玉などの昔の遊びも楽しめる
＊蔵書冊数　7497冊　　＊文庫の部屋　18畳および廊下3畳

1977.10.1　文庫を始める	
1989.1.21　1000回目の文庫の日	1995.5.20　1500回目の文庫の日
2001.11.28　2000回目の文庫の日	2008.10.1　2500回目の文庫の日
2012.1.18現在　2732回	

＜行事＞　夏の特別おはなし会（7月）　すいかパーティー（7月）　おもちの会（10月）
子ども市（10月）　秋の特別おはなし会（11月）　クリスマス会（12月）
新春特別おはなし会（1月）

＜大人向け企画＞　レンゲ゛の会（子どもの本の勉強会）　年9回
あそびの学校（2004年度から始める）　年8回
＊その他　子ども市のための準備会（8回）・クリスマス会のプレゼント作り（2回）

＜利用状況＞　2010年度　登録123人　貸出冊数3357冊　利用者838人（実際に来た人1555人）
1977.10.1～2011.12　登録者（4月に書き換え）9374人　貸出冊数255.145冊　利用者93.007人

＜記念の講演会・原画展＞

	年月日	内　　容
15周年を記念して	1992.7.30 1992.11.30	①斎藤惇夫さんの講演会 ②長野ヒデ子さんの講演会
1500回目の文庫の日を記念して	1995.5.21	西巻茅子さんの講演会
18周年を記念して	1995.10.24	長野ヒデ子さんの講演会
20周年を記念して	1997. 9.26～9.30 1998.2.1 1998.2.27	①絵本の原画展『きつねのホイティ』『ねこのくにのおきゃくさま』（シビル・ウエッタシンハ） ②岡田淳さんの講演会 ③筒井頼子さんの講演会
2000回目の文庫の日を記念して	2001.12.8 2001.12.9	①映画会「グスコーブドリの伝記」 ②絵本の原画展『海をかえして』『狐』（長野ヒデ子） ③長野ヒデ子さんの講演会
25周年を記念して	2003.2.23	斎藤惇夫さんの講演会
28周年を記念して	2005.10.13	小林衛己子さんの講演会
30周年を記念して	2007. 9.26～9.29 2007.9.29 2008.2.24	①絵本の原画展『ねぼすけスーザのおかいもの』『さんぽみちははなばたけ』（広野多珂子） ②広野多珂子さんの講演会 ③岡田淳さんの講演会

＜発行＞　文庫だよりを毎月発行　現在414号　　文集「なかま」を毎年発行　33号まで発行